

令和4年度第2回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和5年2月17日（金） 15：30～17：05

場 所：ココルクえべつ 特別養護老人ホーム1階会議室

出席委員：川上誠一委員、小林孝広委員、吉中厚裕委員、新田雅子委員、
菊地達夫委員、藤本直樹委員、小林徹男委員、田原久美子委員、
岸本佳廣委員、腰原久郎委員、中井和夫委員（計11名）

欠席委員：森田弘之委員、大川尚委員、赤川和子委員、菅井美恵子委員
（計4名）

事務局：企画政策部伊藤次長、健康福祉部障がい福祉課三浦課長、
政策推進課嶋中課長、中住主査、池田主任

その他：ココルクえべつ事務局明石コーディネーター、
高橋サブコーディネーター

傍聴者：0名

会議概要

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員の紹介
- 5 江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会の趣旨について
資料1、参考資料1～3（事務局から説明）

【質疑なし】

- 6 会長の互選及び会長代理の指名
川上委員を会長として選出、川上会長より吉中委員を会長代理として指名。

7 議事

(1) 令和4年度取組経過報告（12月末時点）

資料2（事務局から説明）

(2) 令和5年度取組予定

資料3（事務局から説明）

【質疑】

(1) 令和4年度取組経過報告

○中井委員

私はココルクえべつでデイサービスを利用しているが、このコロナ禍の状況であっても多くのイベントを実施できているという思いである。イベントには沢山の人が来ており、今回報告にはなかったイベントにも参加したが、これ以上イベントを増やして実施するのは難しいと思う。

また、必ずしも協議会への報告の対象ではないかもしれないが、市外からの見学者や学生の実習の場としての活用が非常に多いと見受けられる。また、他の市町村からは単なる見学ではない方も来ているようだ。これらの内容についても協議会に報告した方がより効果的な話になると考える。

最後に、交流農園の農地の整備について、サービス付き高齢者向け住宅入居者から水はけが悪い、土が浅いという話を聞いた。もう少し改善の余地はないか。

○小林施設長

自治体などの見学視察については、担当するココルクえべつ事務局コーディネーターの明石から報告する。

○明石コーディネーター

江別市内だけではなく、中富良野町社会福祉協議会や天塩町社会福祉協議会、韓国ソウルの社会福祉協議会、日本銀行札幌支店長、北海道運輸局と北海道新幹線担当部局など、福祉団体、行政、地域のインフラ作りの団体など想定以上の数の団体が見学に来られている。今年度4月から1月までに83団体の1,300人以上の幅広い方が来られ、中には、複数回見学いただくリピーターとなっている方もいる。

学生の実習については、つしま医療福祉グループの日本医療大学の実習を受け入れているほか、札幌西高校のキャリア探求学習の実習も昨年度から受け入れている。

農園については、事務局から話があったとおり現在酪農学園大学に相談しており、土壌改良や小八重准教授が現在取り組んでいる豆腐のおからを使っ

た堆肥の活用など、雪が解けてから具体的に改善に向けた取組を進めていく予定である。

○川上会長

その他に質問等はあるか。

○藤本委員

全体的な事業の成果に対する感想は中井委員と同様で、非常によくやっていると思う。市役所の担当課が直接実施する事業やココルクえべつ独自の事業なども増えてきており、ジモガクや観光協会との連携なども幅広く広がってきて良い流れだと感じている。

その上で1点質問だが、地域交流事業の企画や運営、事業を開始したり終了したりする際のマネジメントはコーディネーターが中心となっているのか。

また、ココルクえべつで行ってほしい事業について、市内4大学の先生や学生、市民からのアイデアや提案を受け入れられるような仕組みになっているのか。なっている場合にはどのように周知されているか。

○事務局

基本的には、予算策定期限の前に、次年度の予算を組むためにコーディネーターと協議をしながら地域交流事業の内容を計画するという流れになっている。ココルクえべつで行ってほしいことがあった場合については、随時ココルクえべつに相談していただくことになる。

明石コーディネーターから補足があれば説明願う。

○明石コーディネーター

地域交流事業の内容については市と協議しながら進めている。令和2年度に実施した生涯活躍のまちワークショップにおいて、「つながる」というキーワードでいくつかの地域交流のアイデアが挙げられた。このワークショップのアイデアに基づき検討を行っている。今後ココルクえべつで行ってほしいことについては、当事務局のFacebookなどを通じて募っている。

今年度は、市内の若手画家による「まちなかアート展」の展示依頼があったことと、MOA美術館江別児童作品展から展示依頼があった。また、様々な取組のつながりから、大麻ブラスバンドや酪農学園大学のブルーグラス研究会をご紹介いただき、演奏会なども行っているところである。

堅苦しい手続きは特にないので、事務局にご相談いただければ協力させていただきます。

○藤本委員

承知した。いつでも受け入れてくれるということが、もう少し様々な方に伝わるとより良くなると思う。

○明石コーディネーター
了。

(2) 令和5年度取組予定

○事務局

今回欠席している森田委員から質問と意見が出ていたので紹介させていただく。

1つ目、資料3の3ページ、「ココルクえべつもったいないんでない会」について、「この取組は、市民・事業者・行政がともに食品ロスを削減してもったいないと考える機会を設け、食の大切さの認識を深めることが目的だと思う。フードロス商品等の販売とあるが、家庭等で使い切れない未使用の食品を持ち寄り、それらを必要としている団体や個人に寄付するフードバンクやフードドライブの取組とは違うのか。また、取り扱う商品は何か。」という質問をいただいた。

フードバンクは、主に企業や農家から発生する、まだ十分食べられるのに余っている食品を寄贈してもらい、食べ物を必要としている人のもとへ届ける活動や団体を指し、もう一つのフードドライブは、フードバンクが企業や農家からの寄贈であることと異なり、主に家庭で余っている食べ物を集めて、地域の福祉団体やフードバンク等へ寄付することを指す。

この質問に対する事務局としての回答は、「森田委員お考えのとおり、もったいないんでない会は、廃棄されるものの活用やフードロス商品などの販売等を通じて、もったいないという意識や食品や物の大切さについての認識を深めることを目的に実施するイベントである。SDGsの観点からも、そういった取組をココルクえべつでやってみようということで発案されたイベントで、コーディネーターを通じて民間企業などの協力をいただきながら、取り扱う商品を集めることなどを想定しているが、詳細については未定である。現時点では、フードバンクやフードドライブというところまでの想定はないが、まずはやってみてから、その先継続するか、また、方向性をどうするかについて、コーディネーターと検討していきたいと考えている。」とさせていただく。

2点目、「江別市生涯活躍のまち形成事業計画の中で、中高年齢者や障がいをお持ちの方の就業や移住の促進を図るとあるが、どの様な取組をしてきたのか。また、意見になるが、江別市への移住促進に向けた取組として、市外にも生涯活躍のまちに関する情報提供やPRを積極的に行っていただきたい」というものだった。

質問の中にあつた中高年齢者や障がいをお持ちの方の就業や移住の促進を

図るという部分について、資料3の1ページ、①地域交流事業等の中で下から2番目に移住相談というものが入っている。

事務局の回答としては、「就業や移住の促進を図るためにココルクえべつの認知度向上を図るために広報への掲載やチラシの配架の他、ホームページなどのSNSを通じて情報発信を行ってきたほか、地域コーディネーターによる移住等の相談対応を行ってきた。移住相談等については、令和2年4月に大麻第二住区会館の一角をお借りして、江別市生涯活躍のまち開設準備室を開設し、令和4年12月末までに348件の相談を受け、その相談者に応じて必要な情報を提供してきた。

また、障がいをお持ちの方の就労環境向上のための取組としては、先ほども説明したが、合同説明会などを実施してきたほか、令和5年度には新たに見学会も行う予定であり、保護者への情報提供や企業への意識啓発などに取組んでいく予定である。」とさせていただく。

意見をいただいた市外へのPR活動については、江別市にはシティプロモートの担当もいるので、そちらとも連携をしながら市の魅力として発信をしていきたいと考えている。

○川上会長

森田委員には後ほど回答について連絡をしていただきたい。その他に質問等はあるか。

○中井委員

1つ目は、サービス付き高齢者向け住宅入居者からの声になるが、外に出て他の人と交流したいという要望が意外とある。このような要望は施設の方にどの程度伝わっているのか。コロナ禍以前になるが、私が北海道開拓の村でボランティアを行っていたときには、江別市内の他の施設の人たちが見学に来ていた。

2つ目は、入居者には聚楽大学などとの交流があった方が良く思っている。障がい者も同じように他の障がい者との交流の機会があれば良い。その際にはココルクえべつの施設の支援が必要だと思う。

外から招く交流だけではなく、入居者が外に出ていく交流として、来年度は難しいかもしれないが、長期的な視点で考えてほしい。障がい者や施設の入居者には、積極的に外に出て動きたい人もいる。また、博物館の見学は車椅子の利用ができるようになっている。

昨年、酪農学園大学敷地内のイベントに、ココルクえべつのパン屋が出店したと思うが、そういう場所でも機会があれば入居者の参加があれば良いと思う。入居者は商店街に行くことも大変だが、出掛けていく交流を考えていく必要がある。

○小林施設長

先日サービス付き高齢者向け住宅「ゆうゆうじてき」で、入居者との懇談会を行った。その中でもっと外出の企画を増やしてしてもらえないかという声があり、江別市内へ外出する行事などの企画を行っていきたいと考えている。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大していた中で、入居者が感染してしまうと最悪の事態を招きかねないという危機感を持ち、線引きをしながら地域交流の取組を行っていた。昨年2月には施設内で30人規模のクラスターとなり大変だったが、昨年10月くらいに施設内で10人程度感染したときには風邪症状で収まっている。

感染拡大状況に伴い対応の仕方が変わってきていると思うので、施設内で行うだけでなく、市内に出掛け、入居者が楽しめる企画も考えていきたい。

○川上会長

聚楽大学については教育部が所管であるため、事務局は教育部と調整し対応を考えていただけたらと思う。

○事務局

了

○明石コーディネーター

入居者等の外出の機会について補足させていただく。

ココルクえべつで働く障がい者が外に出て交流する取組の一つとして、2月19日に酪農学園大学で行われる江別観光協会のプロジェクトコンペに参加する予定である。

○川上会長

その他に質問等はあるか。

○田原委員

前回の委員会で市が実施している活動や、ココルクえべつが実施している事業が分かりづらいという話が出たが、今回の資料においてはどのような事業を行っているかが分かりやすくなっていた。前回それに対する予算の裏付けがどうなっているかということも出ていたと思うが、それについても記載されていて分かりやすい。

ただ、令和5年度の事業費については、事業はもっと発展すると思うのだが、①地域交流事業は令和4年度よりも100万円くらい予算が削減されている。それはなぜか。

○事務局

江別版生涯活躍のまちについては、市が構想を策定し、その考え方にご賛同いただいた日本介護事業団とともに構想の実現に向けて地域交流事業を進

めている。

事業の実施に当たり、この生涯活躍のまち整備事業という市の予算には国の交付金である地方創生推進交付金を充てている。この交付金は、事業の自走化を目指すことが前提であり、事業に対する市の予算額については、適宜、事業者の状況を踏まえながら双方で協議した上で歳出をしている。

その結果、令和5年度については100万円程度の減少になるが、先ほど取組内容について説明しているが、令和5年度も令和4年度の地域交流事業自体の数や規模は変わらない予定になっている。

○川上会長

予算額は対前年比としては見え方は落ちているが、事業はスクラップアンドビルドでしっかり精査をした中で事業は従来どおり進めるということか。

○事務局

お見込みのとおりである。

○新田委員

今の点は私も疑問に思っていた。

予算と実績とで違ってくると思うので、令和4年度の実態に応じて、令和5年度の予算を減額したと思っていた。そういう情報がこちらにはないので、事務局から資料の説明に合わせて説明があれば良かった。ただ、手元にすぐに数字があるか分からないので、別の機会でも構わないが、そういう説明をしていただければ納得いくと感じた。

それに関連して、形成事業計画は令和5年度までの予定が入っている。この事業はいつまでの交付金を申請して認定されている事業なのか。国の交付金がいつまで認定されており、市としていつまで事業を実施していくかが示されていない中で、今回の委員任期が令和7年までであることが疑問に思った。この協議会は今後もこの形で続けていくと認識して良いのか、どのように計画されているのか。

○事務局

交付金の終了時期については、令和5年度までの計画に対し交付が決定されている。それ以降は国の交付金がないので、他の補助金など財源の確保を検討していかなければならないと考えている。

また、形成事業計画は令和5年度までの5年間となっており、それに対する指標の進捗管理という面では令和6年度に区切りを迎えることになる。

一方で、当協議会の設置要綱にも記載があるが、こちらの協議会については生涯活躍のまち構想に関することについての協議を行うことも掲げられているので、今後こういった形になるかは現時点では未定だが、令和6年度以降の対応については今後考えていかなければならないと思っている。

補足になるが、形成事業計画令和5年度まで指標が出ているが、これを評価するのは令和6年度になる。本日渡した委嘱状に記載されている委員任期については任期終了日を令和6年度中である令和7年2月としており、形成事業計画上の評価をいただくことに関しては令和5年度分を行う令和6年度に一区切りつくと思っている。

「生涯活躍のまち構想」そのものは、5年間の指標の進捗管理で終わるものではなく、「共生のまちづくり」を江別市でどのように広めていくのかを考える必要がある。そういった議論は法律に基づいて設置されているこの協議会で行うのか、他の機関で議論するのかについては今後検討していかなければならないと考えているところである。

○川上会長

私も市の立場で申し上げますと、委嘱期間までは今の形成事業計画に基づいて協議していただくことになるが、そこから先どういう形で進めていくのかは、市の取組全体の中で共生のまちづくりをどういう形で進めていくのかも含めて考えていかなければならない。

何らかの形で協議する場を残していくべきだとは考えているので、然るべきときにご説明させていただきたいと思う。

その他に質問等はあるか。

○田原委員

今回、ココルクえべつの事業や開催しているものについて、全て市の方が説明しているが、ココルクえべつが行事を開くたびに市の方はいつも関わっているのか。

○事務局

全部というわけではないが、どのような事業を行うかについては、コーディネーターと常に連絡を取っている。また、開催日には可能な限り我々も参加するようにしている。

○田原委員

市が全て熟知しているような報告であったため、全ての行事に市の職員が関わっているのかと思い、大変だと思った。

○事務局

定期開催しているもの全てには行けていないが、随時開催のものについては極力顔を出して、事業そのものの様子は見に行くようにしている。

ココルクえべつで独自に開催している取組についても、多岐にわたっているため全てに顔は出せてはいないが、後日、実施状況などの聞き取りをして、この場で説明させていただいている。

○川上会長

本日報告した内容についてはココルクえべつと市が協力し合って実施しているものもあるので、そういうものは市の職員も一緒に関わりながら事業を進めている。

ただ、事務局からあったように、ココルクえべつはかなり多くの取組を行っているのですが、我々が把握できていない部分もあると思うが、常に情報共有をしながら一体となって事業を進めている。市とココルクえべつが協力関係を築きながら、更に地域の方に多世代交流の場を理解していただけるように進めていけるよう頑張っていきたい。

○田原委員

了。

○川上会長

その他に質問等はあるか。

○吉中委員

先ほど施設から外に出て活動するという話があったが、うちの大学でも公開講座を多く行っている。これも新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催が多かったが、今後は対面のものを企画してきたいと思う。その際には案内をするので、是非参加していただきたい。

また、学生や教員の教育研究の場としてもココルクえべつを、是非活用させていただきたい。

○川上会長

各大学では様々な市民向けの公開講座が行われている。また、オンラインでも行っていると聞いているので、外に向けた講座も利活用しながら交流を深めていく活動を進めてほしい。

8 その他

○各委員

(なし)

○川上会長

事務局から連絡等あるか。

○事務局

次回の協議会は8月～9月頃を予定している。事務局で検討の上改めて日程調整する。

9 閉会